

西原町の農業の現状について

アンケート結果(10年後の営農意向)

- ▶ 調査対象農地：3,457筆／意向確認農地：2,233筆(回答率:64%)
- 【年齢層】
50歳未満(3.9%)、50代(9.5%)、**60代(30.8%)**、**70代(28.0%)**、**80代(27.6%)**
- ▶ 農地所有者の大多数が「60代以上」、10年後は「80代以上」が半数を占める
- 【農業経営の今後(10年後)】
拡大(1.6%)、**維持(62.2%)**、縮小(1.2%)、貸したい(7.0%)、売りたい(4.3%)
やめたい(2.2%)、**もう農業していない・貸付している等(21.4%)**
- ▶ 現農地を「維持」したい方が多数。また「貸付している」も多い
- 【後継者について】
家族・親戚(61.1%)、家族・親戚以外の農業者(2.3%)、集落営農組織・法人(0.1%)
現時点で後継者のメドなし(36.5%)
- ▶ 後継は「家族・親戚」が多数。また「メドなし」も全体の3割以上を占める
- 【農地バンクの活用】
活用したい(44.3%)、活用したくない(55.7%)

《令和2年6月実施アンケート調査》

農業課題(課題認識)

【人の問題】

- ▶ 農業者の高齢化、担い手の不足(=農業労働力の不足)
- ▶ 農業経営面積の小さな農家が大多数を占めている。
- ▶ 現農地を「維持したい」方が多く(資産的保有傾向が強い)、農業の流動化が進んでいない。

【農地の問題】

- ▶ 都市化進展に伴い、農業経営の粗放化と生産性の低下が著しい。
- ▶ 農業者の高齢化により、耕作放棄地が増加している。
- ▶ 耕作放棄地をそのまま放置した場合、担い手の規模拡大が遅れる。また周辺農地の耕作にも大きな支障を及ぼすおそれがある。

町が考える農業のあり方(案)

【農地利用のあり方】

- ▶ 担い手が利用する農地の分散を解消し、**集積・集約化**を図る
- ▶ **耕作放棄地を解消し有効活用**する
- ▶ **担い手への農地集積**と同時に、新規就農希望者の農業者に対しても小規模農地を耕作させて**小規模の農家の育成**も行う

【農地利用における農地バンクの活用方針】

- ▶ 農業をリタイヤ、経営転換する人は、原則として**農地バンクに貸し付ける**
- ▶ **農地の分散解消を図るため農地バンクを積極的に活用する**

【作物生産に関する取組方針】

- ▶ 農地利用の効率化を図るため**作付品目のエリア設定を行う**。特に収益性の高い野菜類については土地改良区などの基盤整備がされた農地を積極的に活用する。また畜産については団地化を図ることが有効であることから、住宅街から距離があり、かつ農地がまとまっている地区へ誘導していく 例)【野菜ゾーン】**津花波・安室・掛保久地区** / 【畜産ゾーン】**小橋川地区**
- ▶ 西原町農水産物・流通・加工・観光拠点施設(西原さわふじマルシェ)を活用し、**特産加工品の開発に向けた作物の生産に取り組む**



《令和2年12月完成予定》
西原町農水産物・流通・加工・観光拠点施設
(愛称:西原さわふじマルシェ)